

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(石油:<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>)

マイライブラリー:0440

(注)本稿は2018年5月7日から17日まで6回に分けて「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

## **油価堅調で売上、利益ともに上昇傾向:五大国際石油企業2018年1-3月期決算速報**

2018.5.20

前田 高行

目次	頁
1. 五社の1-3月期業績比較	2
2. 2017年第1四半期以降の四半期別業績の推移	5

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、BP、Total 及び Chevron)の1-3月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益(総合及び上流部門、下流部門)、売上高利益率、設備投資および石油・天然ガス合計生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

<http://news.exxonmobil.com/press-release/exxonmobil-release-first-quarter-2018-financial-results>

Shell:

<https://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2018/first-quarter-2018-results-announcement.html>

BP:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/media/press-releases/first-quarter-2018-results.html>

Total:

<https://www.total.com/en/media/news/press-releases/2018-first-quarter-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-reports-first-quarter-net-income-of-3-6-billion>

なお前期(2017年10-12月期)、2017年通期及び2009年から2017年までの通年の業績比

較は下記レポートを参照されたい。

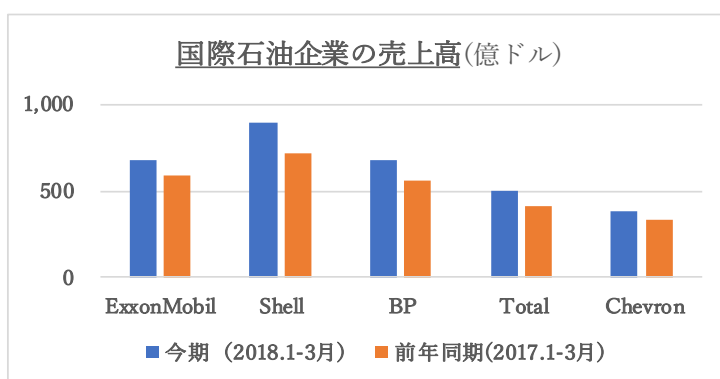
<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>

## 1. 五社の1-3月期業績比較 (末尾表 1-D-4-22 参照)

五社を横並びで比較すると売上高、総合利益、下流部門利益及び天然ガス生産量では Shell がトップである。しかし上流部門利益、設備投資、原油生産量および原油と天然ガスを合計した生産量の各部門ではExxonMobilが、また売上高利益率はChevronがトップである。今期は上流・下流部門を含め各社とも安定した利益を計上している。原油生産量では ExxonMobil がずば抜けて大きく、天然ガス生産量では Shell と ExxonMobil がほぼ同量で他の3社を大きく引き離している。

(売り上げは各社とも前年同期比で二桁の増収率！)

### (1) 売上高

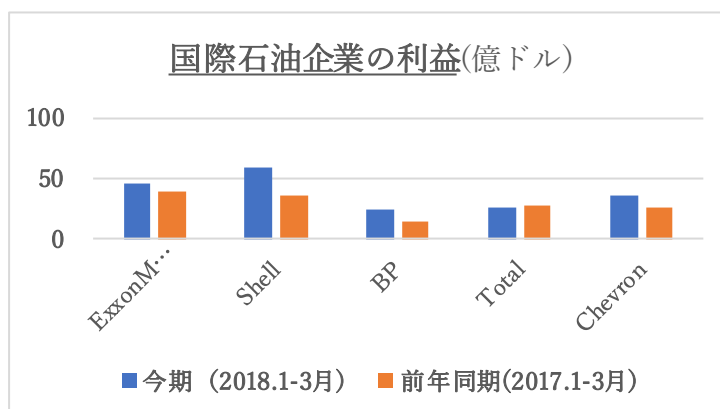


2018年1-3月の売上高は5社ともに前年同期に比べ二桁の増収率である。各社の原油・天然ガス生産量は一桁台の増減にとどまっております(本稿下記参照)、従って売り上げの上昇は原油価格が堅調に推移したためと考えられる。因みにShellの決算資料で見ると、昨年第1四半期はバレル当たり平均48.4ドルであった

たものが、今期は60.66ドルに上昇している。2011年あるいは2012年のピーク時には年間平均価格が100ドルを超えたが、昨年第一四半期はほぼ2分の1、今期は6割まで戻っている。原油価格の上昇がそのまま各社の売上高の増加に反映されたと言えよう。

各社の売上高および対前年同期の増加幅は、ExxonMobil が682億ドル(16%増)、Shell892億ドル(24%増)、BP 682億ドル(22%増)、Total 496億ドル(21%増)、Chevron 378億ドル(13%増)であった。

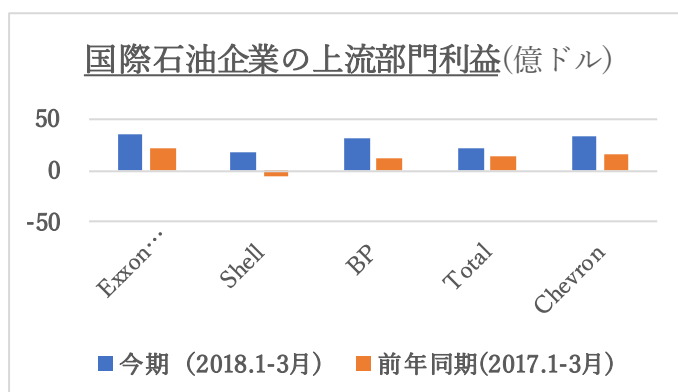
### (2) 総合利益



今期は5社ともに利益を計上しており、また Total 以外の4社は前年同期を上回る利益を計上している。利益額が5社の中で最も大きいのはShellの59億ドルであり前年同期(35億ドル)の1.7倍である。Shellに次いで利益が多いのはExxonMobilの47億ドルであり、同社の場合は前年同期比16%増で

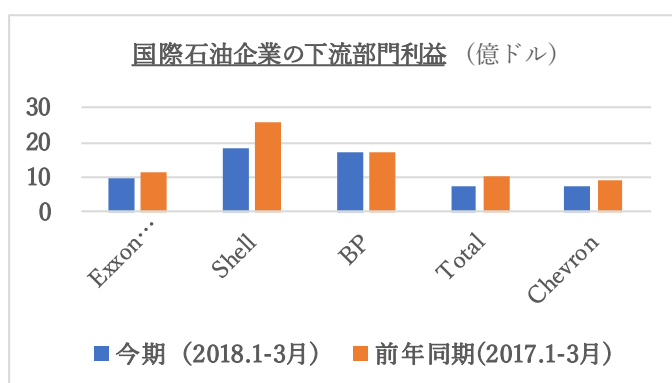
ある。Chevron、Total 及び BP の利益はそれぞれ36億ドル、26億ドル及び25億ドルであり、前年同期に比較すると Total は8%の減益であるが、Chevron、BP は36%及び70%の増益である。

### (3) 上流部門と下流部門の利益



利益を上流部門(石油・天然ガスの開発生産分野)と下流部門(石油精製および製品販売分野)に分けて比較すると、まず上流部門では ExxonMobil(35億ドル)、Chevron(34億ドル)、BP(32億ドル)の3社が30億ドル台の利益を計上して並んでいる。

これに次ぐのが Total の22億ドルで Shell は5社中では最も少ない19億ドルである。Shell の前年同期はマイナス5億ドルで5社中、唯一上流部門で欠損を計上したが、今期はプラスに転換している。とは言え5社の中で利益水準が最も低く同社の上流部門は脆弱と言えよう。



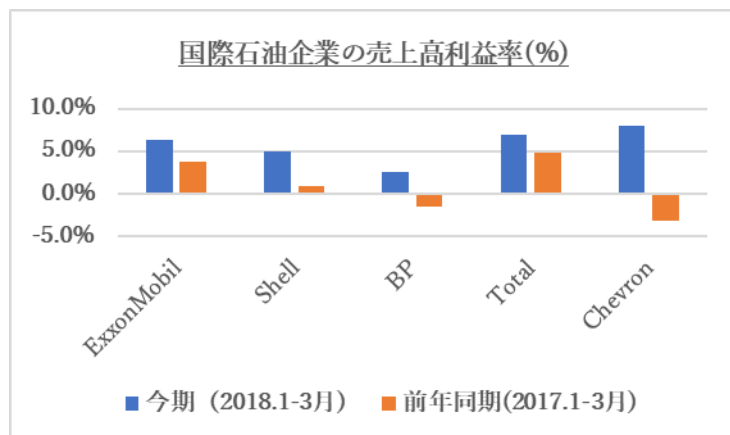
下流部門は全社利益が計上しているというものの、いずれも上流部門の利益を下回っており、また前年同期と比較すると横ばいであった BP を除き他の4社はいずれも20%~30%低下している。上記(1)の売上高で触れた通り、原油価格が前年1-3月期の平均48ドルから今期は61ドル上昇したため下流部門の利益が圧迫されている。

5社の中で下流部門の利益が最も高かったのは Shell の18億ドルである。同社上流部門の利益が5社の中で最も少ない(上記)のと対照的である。Shell に次ぐのが BP(17億ドル)であり、その他の3社の利益は一桁台(7乃至9億ドル)であった。これら3社の下流部門の利益は上流部門のその2分の1以下である。歴史的に見ると五大国際石油企業は2014年に原油価格が100ドルを超えるまで上流部門の利益が下流部門を上回る時代が長く続き、その後一転して原油価格が暴落した2015~17年は下流部門の利益が上流部門を上回った。そして原油価格が高値安定している現在は再び上流部門が利益の源泉になっている。

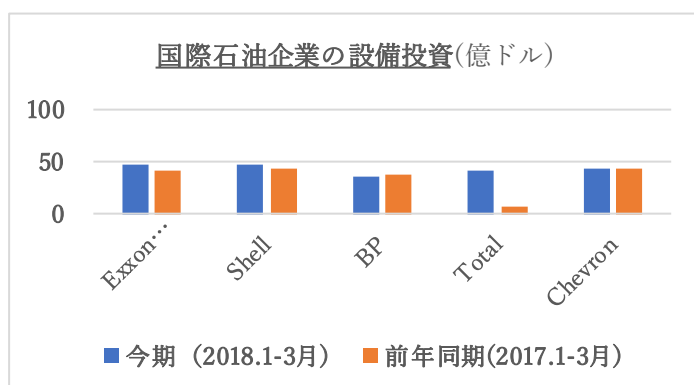
なお上記(2)総合損益は各社によって石油化学品部門あるいはその他の損益を含むため上・下流部門の利益の合計額とは一致しないケースがある。

### (4) 売上高利益率

売上高利益率は Chevron が9.6%と最も高く、ExxonMobil 6.8%、Shell 6.6%、Total 5.3%と続いている。利益率が最も低い BP は3.6%である。利益率は各社とも前年同期に比べ大きな変化は無く、Total が6.9%→5.3%に若干悪化しているが、その他4社は前年と同等もしくは改善している。



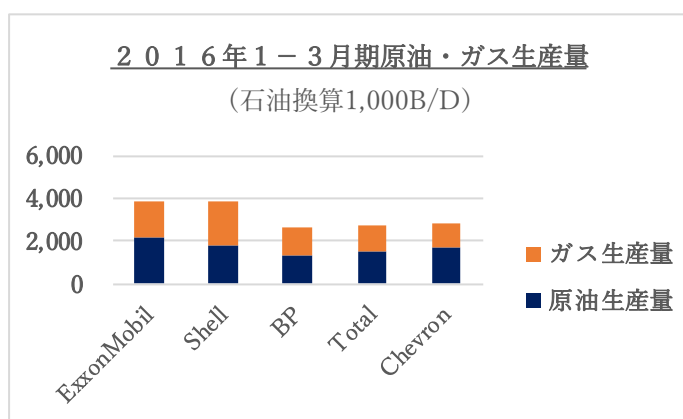
### (5)設備投資



2018年1-3月期の各社の設備投資額はいずれも40億ドル前後である。最も多いのは ExxonMobil の49億ドル、これに次ぐのが Shell の48億ドルである。Chevron 及び Total の設備投資額は40億ドル台前半であり、最も少ない BP は36億ドルである。前年同期と比較すると Total は8億ドルから5倍以上の41億ドルに増加している。その他

の4社は大きな変化は見られない。

### (5)原油・ガス生産量 (末尾表 1-D-4-22 参照)



今年1-3月の原油生産量はExxon Mobilが平均日産量222万バレル(以下 B/D)で5社の中では最も多い。その他の4社はいずれも200万 B/D 以下であり、Shell が179万 B/D、Chevron 175万 B/D、Total は148万 B/D、BP は ExxonMobil の6割弱の132万 B/D で5社の中では最も少ない。ExxonMobil は世界各地で万遍なく原油

生産をおこなっており他社を圧倒している。前年同期と比較するとExxonMobil、Shell 及びBPは5%程度減少しており、一方 Chevron は3%増、Total は14%増であった。

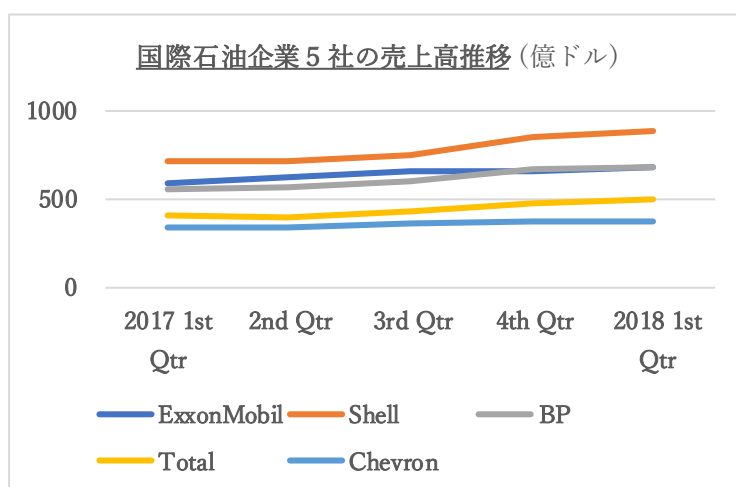
天然ガスの生産量は Shell と ExxonMobil がそろって100億立方フィート(以下 cfd)を超える生産を誇っている。残る3社は BP が75億 cfd であり Total、Chevron は66億 cfd と上位2社の6割強にとどまっている。前年同期に比べると BP は29%、Chevron14%、Shell は 9%それぞれ増加しているが、ExxonMobil は8%減、Total も3%減少した。

天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量では ExxonMobil は389万 B/D でこれに次ぐのが Shell の384万 B/D である。その他の3社はいずれも270万 B/D 前後である。石油と天然ガスの比率を見ると、Chevron は石油61%、天然ガス39%であり5社の中では石油の比率が最も高い。ExxonMobil、Total 及び BP3社も石油の比率が天然ガスを上回っており、それぞれ石油57%:天然ガス43%、石油55%:天然ガス45%、石油51%:天然ガス49%である。しかし Shell のみは天然ガスが石油を上回っており、石油46%:天然ガス54%である。Shell は最近特に天然ガスに力を入れているようである。

## 2. 2017年第1四半期以降の四半期別業績の推移

五社の売上高、利益(全体、上流部門および下流部門)、設備投資、原油・天然ガス生産量に関する2017年1-3月期以降今期までの四半期ごとの業績推移は以下の通りである。

### (1) 売上高の推移



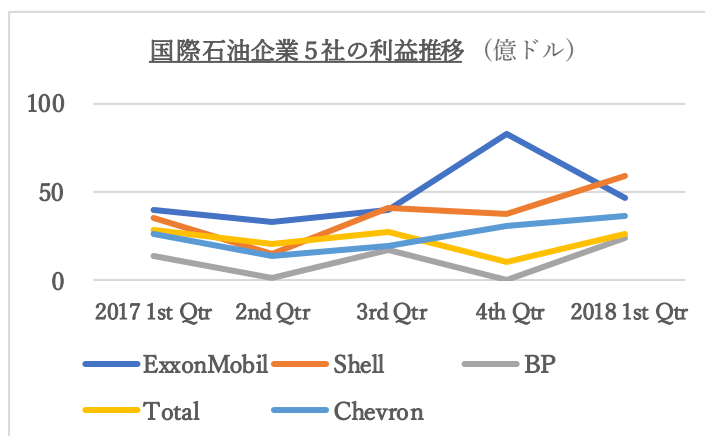
2017年第1四半期から2018年第1四半期に至る四半期ベースの売上高は原油価格の上昇を受けて各社とも増収基調にある。5社の中では Shell が718億ドル('17 1st Qtr)→721億ドル(2nd Qtr)→758億ドル(3rd Qtr)→854億ドル(4th Qtr)→892億ドル('18 1st Qtr)と5期連続で売り上げトップを続けており、しかも2位、3位の ExxonMobil 及び BP との格差は拡大する気配がある。

Shell に次ぐのが ExxonMobil でありその売上高は587億ドル('17 1st Qtr)→629億ドル(2nd Qtr)→662億ドル(3rd Qtr)→665億ドル(4th Qtr)→682億ドル('18 1st Qtr)である。また BP の売上高は559億ドル('17 1st Qtr)→565億ドル(2nd Qtr)→600億ドル(3rd Qtr)→678億ドル(4th Qtr)→682億ドル('18 1st Qtr)であり、最近の2四半期は両者の売上はほぼ同額である。

この間の四半期平均原油価格(1バレル当たり)の推移を Shell の決算資料で見ると48.36ドル('17 1st Qtr)→45.62ドル(2nd Qtr)→47.06ドル(3rd Qtr)→55.28ドル(4th Qtr)→60.66ドル('18 1st Qtr)であり、昨年第2四半期以降、原油価格は33%上昇している。

### (2) 利益の推移

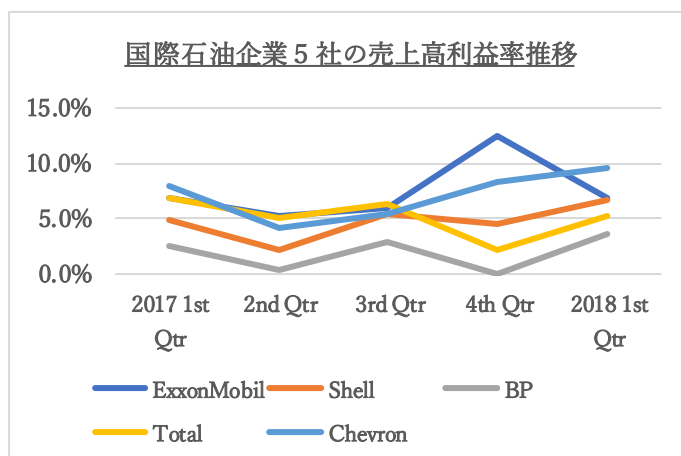
過去1年間の四半期ごとの利益水準は各社によって異なるものの、いずれも欠損を出すことなく、昨年第2四半期以降は増益傾向にある。



5社の中ではExxonMobilは40億ドル('17 1st Qtr)→34億ドル(2nd Qtr)→40億ドル(3rd Qtr)→84億ドル(4th Qtr)→47億ドル('18 1st Qtr)と毎期40億ドル前後の利益を計上、特に前期(17年第4四半期)は84億ドルと他社の2倍以上の利益を記録している。Shellは昨年第1四半期にExxonMobilに次ぐ35億ドルの利益を計上した後、第2四半期は2分の1以下

下の15億ドルの利益にとどまっている。しかしその後は5社の中で最も高い利益の増加率を示し今期はExxonMobilをしのぎ最高の利益を計上している。ChevronとTotalの昨年第1四半期の利益はそれぞれ27億ドル及び28億ドルであり、その後も大きな浮き沈みはなく安定した利益を計上している。5社の中で利益水準が最も低いのはBPであり、5期のうちの2期は利益がほぼゼロに近く、今期ようやく20億ドルを超える利益を確保した。

### (3) 売上高利益率の推移



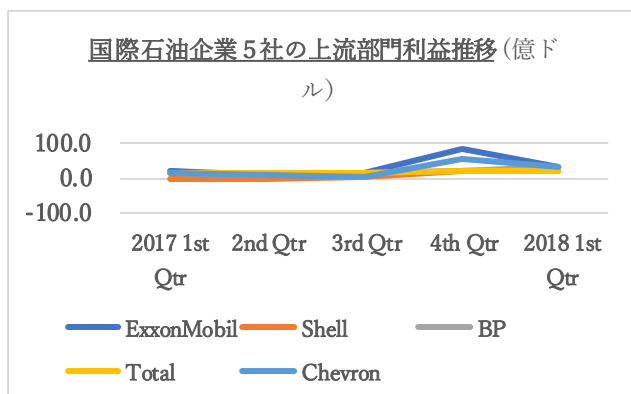
1年前の昨年第一四半期の五社の利益率はChevronが8%と最も高く、次いでTotal6.9%、ExxonMobil6.8%であった。Shellは4.9%、BPは最も低い2.6%にとどまっている。昨年第2四半期は5社すべての利益率は低下した。5%を超えたのはExxonMobil及びTotalの2社にとどまり、BPの利益率は0.3%であった。続く第3四半期には利益率が回復したが、第4四半期には

各社の明暗が分かれ、ExxonMobilは12.6%という高い利益率を示したのに対しTotalは2.2%、BPは0%の利益率にとどまった。今期はExxonMobil以外の4社の利益率が向上、Chevronは5社で最高の9.6%の利益率を達成した。これに対してExxonMobilの利益率はShellの6.6%をわずかに上回る6.8%にとどまった。

### (4) 部門別利益の推移

(4-1) 上流部門 前年の2017年第1四半期の各社の上流部門の損益はShellが欠損を計上、その他の4社は利益を出している。利益が最も多いのはExxonMobilの23億ドルであり、Chevron、Total、BPの3社は13~15億ドル程度の利益であった。第2及び第3四半期はShellが引き続き欠

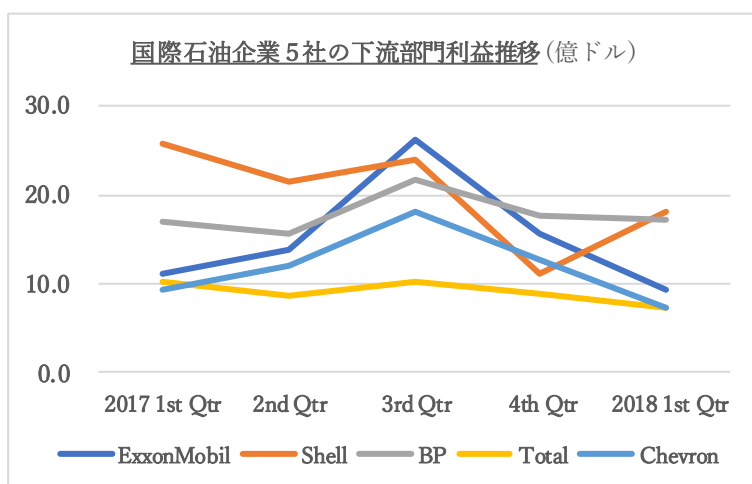
損であり他の4社は利益が減少した。第3四半期の5社の利益水準は ExxonMobil の16億ドルを筆頭に最も低い Chevron の5億ドルまで各社ほぼ横並びとなった。



第4四半期は ExxonMobil と Chevron の利益がそれぞれ84億ドル、53億ドルと大幅に伸びた一方、Shell、BP 及び Total3社は横ばいとなり格差が拡大した。今期(2018年第1四半期)は ExxonMobil、Chevron 及び BP が30億ドル超で並び、また Total と Shell は20億ドル前後である。

5四半期を通じて各社の上流部門の利益の推移を見ると、Shell が5社の中で最も利益水準が低く、同社の上流部門は他の4社に比べて見劣りがする。

#### (4-2) 下流部門



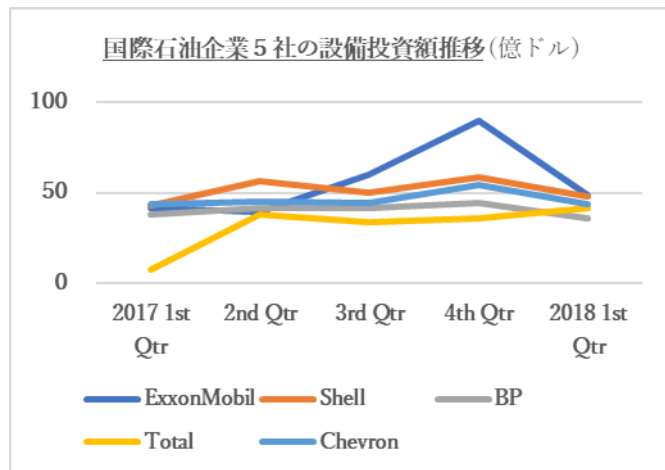
下流部門は2017年第一四半期から今年2017年第一四半期までの5期連続して全社が利益を計上している。2017年第一四半期は Shell が26億ドルと他の4社を引き離して最も多く、次いで BP が17億ドル、ExxonMobil、Total、Chevron の3社は10億ドル前後で並んでいる。ExxonMobil 及び Chevron は第2、第3四半期と連続して増益を記録、第3四半期には ExxonMobil が5社トップの26億ドルの利益を計上、次いで Shell、BP、Chevron の順で、Total のみは低迷し10億ドルにとどまった。

しかし ExxonMobil 及び Chevron の利益は第4四半期、今年第1四半期と連続して急減、前年同期を下回る結果となった。BP 及び Total も漸減傾向を示し、前年同期とほぼ同じ水準にとどまった。Shell は第4四半期は利益が急落したものの、今期は18億ドルの利益を確保し、5社のトップに振り返っている。Shell は上流部門の利益が他社に見劣りするが(上記4-1参照)、下流部門に強いようである。

#### (5) 設備投資の推移

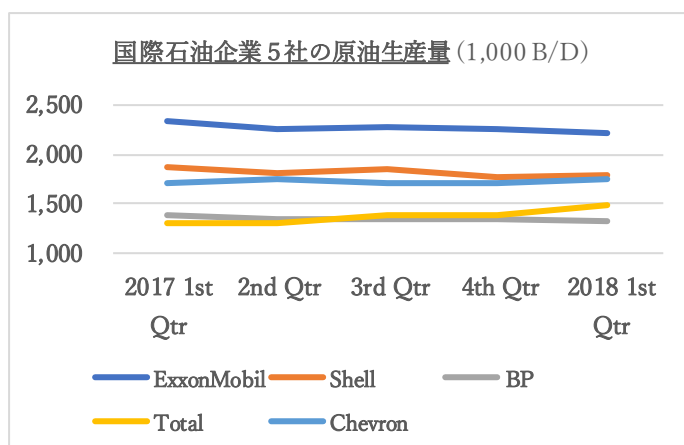
5社の四半期ベースの設備投資額は第4四半期の ExxonMobil(90億ドル)を除き、過去1年間を通じて60億ドルを下回る低い水準が続いている。2017年第一四半期の投資額は ExxonMobil、

Chevron、Shell 及び BP の4社が40億ドル前後並んでおり、Total のみ1ケタの8億ドルにとどまっている。第2四半期から第4四半期までの3期は Shell、Chevron、BP、Total の4社いずれもが40億ドル前後で並び、金額の順位も変動が無かった。ExxonMobil は第4四半期に他社を大幅に上回る90億ドルの投資を行っている。今期(2018年第1四半期)の設備投資額は36~49億ドルと全社ほぼ横並びの状態である。



## (6)原油・天然ガス生産量の推移

### (6-1)原油生産量



過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移を見るとExxonMobilが他社を引き離して5期連続でトップを守っている。ExxonMobilの生産量は5社の中でただ1社200万B/D台を維持している。但し、同社の生産量は年間を通じて低落傾向にある。ExxonMobilに次ぐ二番手グループはShellとChevronで、その生産量は180万B/D前後である。両社の差は1年前の16万B/Dから今期

は3万B/Dまで縮まっている。BPとTotalは1年前に130万B/D台でそれぞれ4番手及び最下位であった。しかしその後Totalの生産量が増加、BPを追い抜いて4番手になり今期は150万B/D近くに達している。

2017年第1四半期の各社の生産量はExxonMobilが233万B/DでShell及びChevronはそれぞれ187万B/D及び171万B/Dであった。これに次ぐBPは139万B/D、Totalは5社の中で最も少ない130万B/Dであり、これはExxonMobilの2分の1強にとどまっている。

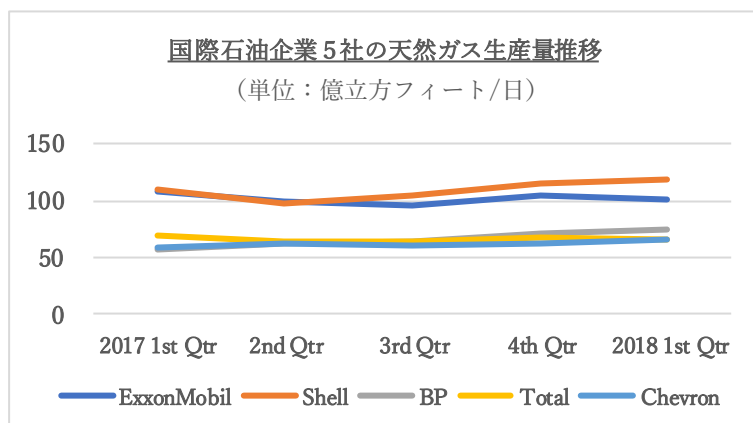
その後ExxonMobilは第2四半期に227万B/Dに下落、今年第1四半期は222万B/Dにとどまり1年前に比べて生産量は漸減傾向にある。Shellも年間を通じて生産量は下落しており、昨年第4四半期以降はそれまでの180万B/D台から170万B/D台に落ち込んでいる。これに対してChevronは年間を通じてコンスタントに170万B/D台を維持しており、その結果ShellとChevronの差はほと



んどなくなりつつある。

BP は1年間を通じて生産量は横ばい状態である。これに対し1年前に最下位であった Total はその後5社の中で生産量が最も高い伸びを示し、昨年第1四半期の130万 B/D が今期は148万 B/D と1年間で14%増加し、BP を追い抜き4位に浮上している。

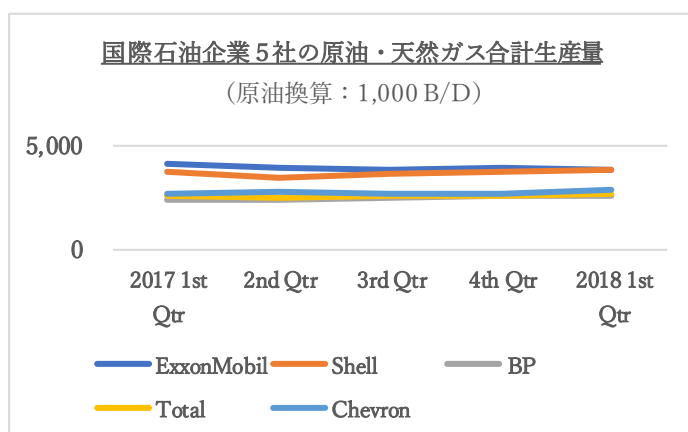
### (6-2)天然ガス生産量



天然ガスの生産量は ExxonMobil と Shell の上位グループと BP、Total、Chevron の下位グループの2極に分かれており、上位2社がほぼ毎期日量100億立方フィート以上を生産し続けているのに対して他の3社は60億立方フィート台の生産量にとどまっている。

但し ExxonMobil と Shell の上位2社の天然ガス生産量は Shell が増加傾向にあるのに対して、ExxonMobil は逆に減少気味であり、年々格差が広がりつつある。今期(2018年第1四半期)の生産量は Shell の119億立方フィートに対し ExxonMobil は100億立方フィートにとどまっている。Total、Chevron、BP の3社の生産量は年間を通じて横ばいでほぼ同量である。

### (6-3)原油・天然ガス合計生産量



天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量の推移を見ると ExxonMobil は下降気味であるが、その他の4社はわずかながら増産傾向が見られる。2017年第1四半期の各社の合計生産量は ExxonMobil が最も多い415万 B/D で5社の中では唯一400万 B/D 台であった。これに続くのが Shell の375万 B/D、その他3社は Chevron(268万 B/D)、Total(257万

B/D)及び BP(239万 B/D)であり BP は ExxonMobil のほぼ6割である。

今年第1四半期の各社の生産量は、ExxonMobil が400万 B/D を切り389万 B/D である。他の4社は Shell 384万 B/D、Chevron 285万 B/D、Total 270万 B/D、BP 261万 B/D であり、全社が200万 B/D 台に並んでいる。対前年同期の増減率は ExxonMobil -6.3%、Shell +2.3%、Chevron +6.6%、Total +5.2% であり、ExxonMobil のみが前年同期を下回り、その他4社は増加

しているのが特徴である。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

## 2018年1-3月期国際石油企業の業績

年		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron
売上高(百万ドル)	2018年1-3月	68,211	89,235	68,172	49,611	37,764
	前年同期	58,671	71,796	55,863	41,183	33,421
	増減(%)	16.3%	24.3%	22.0%	20.5%	13.0%
総合損益(百万ドル)(*)	2018年1-3月	4,650	5,899	2,469	2,636	3,638
	前年同期	4,010	3,538	1,449	2,849	2,682
	増減(%)	16.0%	66.7%	70.4%	-7.5%	35.6%
上流部門損益(百万ドル) (*)	2018年1-3月	3,497	1,854	3,174	2,183	3,352
	前年同期	2,252	▲ 530	1,256	1,382	1,517
	増減(%)	55.3%	-449.8%	152.7%	58.0%	121.0%
下流部門損益(百万ドル) (*)	2018年1-3月	940	1,806	1,713	720	728
	前年同期	1,116	2,580	1,706	1,023	926
	増減(%)	-15.8%	-30.0%	0.4%	-29.6%	-21.4%
売上高利益率(%)	2018年1-3月	6.8%	6.6%	3.6%	5.3%	9.6%
	前年同期	6.8%	4.9%	2.6%	6.9%	8.0%
設備投資(百万ドル)	2018年1-3月	4,867	4,789	3,586	4,139	4,405
	前年同期	4,169	4,306	3,823	780	4,392
	増減(%)	16.7%	11.2%	-6.2%	430.6%	0.3%
原油生産量(1,000B/D)	2018年1-3月	2,216	1,785	1,319	1,481	1,753
	前年同期	2,333	1,866	1,389	1,303	1,708
	増減(%)	-5.0%	-4.3%	-5.0%	13.7%	2.6%
ガス生産量(100万 cfd)	2018年1-3月	10,038	11,912	7,463	6,664	6,593
	前年同期	10,908	10,935	5,791	6,894	5,807
	増減(%)	-8.0%	8.9%	28.9%	-3.3%	13.5%
同石油換算(1,000B/D)	2018年1-3月	1,673	2,054	1,286	1,222	1,099
	前年同期	1,818	1,886	999	1,266	968
	増減(%)	-8.0%	8.9%	28.7%	-3.5%	13.5%
原油・ガス合計生産量 (石油換算 1,000B/D)	2018年1-3月	3,889	3,839	2,605	2,703	2,852
	前年同期	4,151	3,752	2,388	2,569	2,676
	増減(%)	-6.3%	2.3%	9.1%	5.2%	6.6%

\* 総合損益には石油化学部門あるいはその他の損益を含むため、上流部門・下流部門損益の合計額とは一致しない場合がある。